

SVPインサイトVol.52

ロボット(介護)

～国内市場の現状と将来展望～

本レポートは、2023年12月発行の注目市場分析レポートに基づき作成しております。
また、上記レポートは当社会員向けに提供しております。



I. 市場の定義

介護ロボットとは、介護者の負担軽減と要介護者の自立支援を目的として、センサーや自動制御技術を応用した介護機器である。本レポートでは「移乗支援ロボット(装着型・非装着型)」「入浴支援ロボット」「排泄支援ロボット」の各分野を対象とし、歩行補助カートや見守りシステムは除外した。市場規模・シェアは、メーカーの出荷台数・売上を基に、買い取り導入だけでなくレンタル・リースも含めて推定している。主な利用先は介護施設だが、在宅介護向けへの応用も広がっており、社会的意義や普及価値の高い市場であり、今後の拡大が期待される。

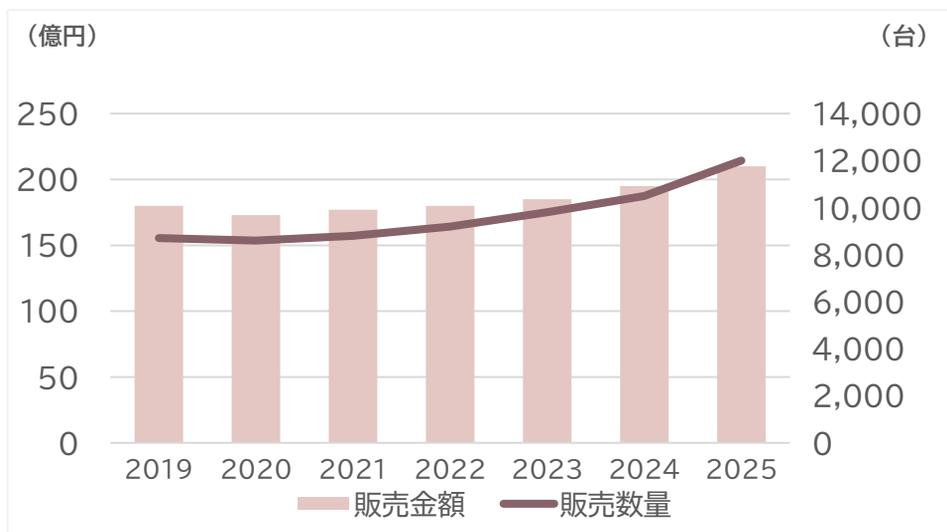
II. 市場動向

日本は高齢化が進行し、介護人材不足が深刻化している。この課題解決策として介護ロボットが注目されており、政府は経済産業省や厚生労働省を通じて補助金等の支援を実施している。2022年時点での介護ロボット導入率は約22%で、普及は限定的である。その主因は、導入コストの高さとロボットの有効性への懸念である。介護ロボットの導入コストは数十万～数百万円と高額な傾向であり、多くは地域医療介護総合確保基金による補助金を活用して導入される。近年では補助額や対象範囲の拡充が進み、今後も継続的支援が必要である。メーカーは、現場ニーズに即した製品開発と運用支援を強化することが重要となっている。

III. 市場規模・予測

2022年の介護ロボット市場規模は約180億円、販売台数は約9,000台強と推定される。コロナ禍で一時的停滞したものの、2021年から2022年にかけて回復基調を示している。分野別では入浴支援ロボットが金額ベースで90%を占め、台数ベースでは装着型移乗支援ロボットが顕著な伸びを示している。今後も省力化ニーズの高まりを背景に、市場は年平均5～10%の成長が見込まれる。さらに使い勝手の向上や低価格化、在宅介護分野への拡大により、長期的には市場規模の大幅な増加が期待される。

介護ロボット 市場規模推移

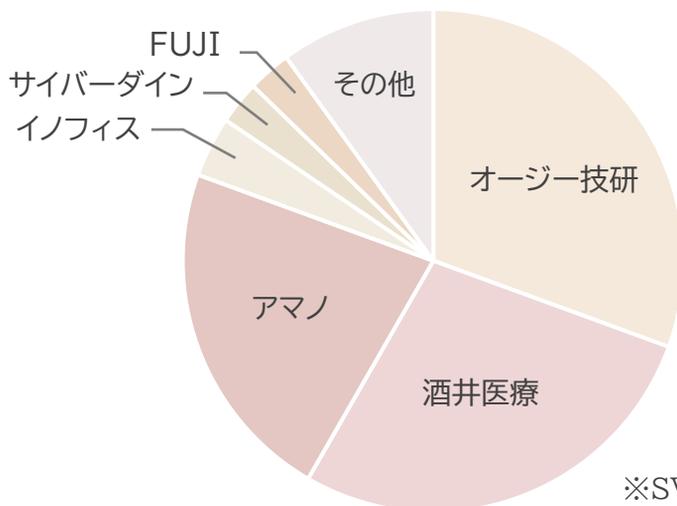


※SVPジャパン推定

IV. マーケットシェア

2022年のマーケットシェアでは、入浴支援ロボット分野においてオージー技研、酒井医療、アマノの3社が上位を占め、合計で約8割を独占している。これら企業は介護施設向けの多様な入浴支援ロボットと保守サービスによって優位性を維持している。移乗支援ロボット分野では、装着型がイノフィス、サイバーダイン、非装着型がFUJIなどが主要企業となっており、現場ニーズに応じた製品差別化を進めている。数量ベースでは装着型移乗支援ロボットのシェアが拡大している。排泄支援ロボットや特殊な移乗支援ロボット分野でも専門メーカーが参入し、補助金活用やレンタル販売を通じて市場アクセスを広げている。

介護ロボット マーケットシェア(2022年・金額ベース)



※SVPジャパン調べ

V. 参入企業の動向

入浴支援ロボット市場の牽引役はオージー技研、酒井医療、アマノの大手3社であり、幅広い製品ラインナップとアフターサービスにより高いシェアを保持している。移乗支援ロボット分野ではイノフィスの「マッスルスーツ」、サイバーダインの「HAL」、FUJIの非装着型「Hug」が代表例である。各社は低価格化・製品多様化・実証導入の強化によって信頼性を高め、導入先の拡大に成功している。さらに、非装着型移乗支援ロボットや排泄支援ロボット分野ではアイザック、アイ・ソネックス、マッスル、アド・ロールスなど専門メーカーが利便性や衛生性に注力し開発を進めている。また、いうら、パラマウントベッド、タイガー医療器など入浴支援ロボットを開発する中堅メーカーも独自技術により市場での存在感を示している。

VI. 業界構造

介護ロボット業界には医療・福祉機器メーカー、ロボット・FA機器メーカー、大学発ベンチャーなど多様な事業者が参入している。主な販売先は介護施設や病院で、介護用品卸会社やレンタル・リース企業を通じた販売が中心である。導入形態としては補助金を活用した買い取りが主流だが、レンタル・リースも増加傾向にあり、サイバーダイン等一部メーカーは直接レンタル事業も展開している。サービス・保守および導入支援といった提案力が競争力の根幹である。今後は施設市場のみならず在宅介護領域への展開も重要な課題となり、高齢化の進展、介護人材不足、政府支援策が業界のさらなる普及拡大を後押しする見込みである。



1分でわかる

SVP会員制 ビジネス情報サービス



1. ビジネス情報収集における環境の変化

環境の変化が激しく、将来の予測が非常に困難な時代に入

変化①

社会環境の変化



- ✓ 戦争の勃発
- ✓ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行
- ✓ 気候変動



変化②

ビジネス環境の
変化



- ✓ テクノロジーの進化
- ✓ グローバル化
- ✓ 新世代の台頭
- ✓ 破壊的企業の躍進



組織的な課題に直面



2.企業が直面している3つの課題

これまで以上に、迅速で的確な情報収集・分析能力が求められています

1 幅広いビジネス 情報のアクセス

幅広い事象に関して、
スピーディーにアクセスできる
環境の整備



3 成長が期待される 新市場の動向把握

事業機会の可能性がある全ての
市場や企業動向を認識する
ケイパビリティの有無



2 質の高い情報の獲得 (重要領域での質の担保)

信頼できる上質な
ビジネス情報を収集できる
環境の構築



3.当社サービスが提供する価値

ビジネス情報に関する皆さまの課題を当社が解決いたします！

SVP会員サービス



解決① クイックリサーチ

I.

膨大なビジネス公開情報へアクセスし、スピーディーに最適な情報を提供

解決② プロジェクトリサーチ

II.

カスタム調査を通じて、質の高いビジネス情報と分析アウトプットを提供

解決③ SVPナレッジ

III.

当社が定義する、メガトレンドや注目市場の動向予測レポートを提供

年間契約で3つのサービスをご提供します



I. クイックリサーチ

活用シーン

- ・日々のリサーチ作業をアウトソースして、分析や戦略立案など付加価値業務に注力したい。
- ・ニーズに合ったビジネス情報を、スピーディーにわかりやすくまとめて提供して欲しい。

特徴

- ✓幅広いビジネス公開情報の活用
- ✓プロのリサーチャーによるニーズ把握と最大2時間の調査
- ✓わかりやすくまとめたレポートでご報告

納期 最短2日営業日以内

III. SVPナレッジ

活用シーン

- ・メガトレンドを中心とした、将来、事業に影響を与える環境要素は何か知りたい。
- ・①Z世代、②サステナビリティ、③テクノロジー、④新興国を含む海外市場、⑤破壊的企業の動向を把握したい。

内容

- ✓SVPメールマガジン
- ✓SVPインサイト
- ✓SVP注目市場分析
- ✓SVPトレンド調査

配信頻度 月1回以上

II. プロジェクトリサーチ

活用シーン

- ・公開情報では公表されていない、市場や業界、企業、消費者の情報収集がしたい。
- ・自社の事業領域に関する、質が高く、ニーズに即した情報を入手して、ビジネスに即活用したい。

特徴

- ✓広範なカスタム調査・分析
- ✓デスクリサーチ
- ✓ヒアリング調査
- ✓Webアンケート調査

納期 調査内容に応じて決定

5.導入実績



年間調査実施数
約15,000件



商用DBシステム利用
20システム



国内外企業財務情報
4,000万社以上



SVPネットワーク
世界40カ国の広がり

日本の売上高トップ100社中7割の企業でのご利用実績 導入企業600社以上





—SVP JAPANのサービスについて—

2営業日以内に調査結果をご報告

クイックリサーチ

[詳しくはこちら](#)

カスタムメイドのリサーチサービス

プロジェクトリサーチ

[詳しくはこちら](#)



—各種お問い合わせ—

資料ダウンロード

[こちらをクリック](#)



お問い合わせ

[こちらをクリック](#)



s'il vous plaît
SVP JAPAN
株式会社SVPジャパン

まずはお電話でもお気軽にお問い合わせください。

TEL:03-3249-0771

